

大阪大学大学院医学系研究科漢方医学寄附講座活動報告

◇職員

准教授	西田 愼二
助教	井上 隆弥
	岸田 友紀
	有光 潤介
特任研究員	中西 美保
	大塚 静江
事務	大橋 真理

◇沿革

大阪大学大学院医学系研究科は、大阪大学のモットーである「地域に生き世界に伸びる」の一環として、21世紀を担う医療のスペシャリストの育成と世界をリードする研究の推進を目指している。すでに最先端の研究として遺伝子治療、再生医療をはじめ多くの実績を積み上げ、今後も未来医療の発展に大きな可能性が期待されているところである。

しかしながら一方で高齢化社会が進行し、健康志向、Quality of Life改善が望まれる中、西洋医学を基盤とする先端医療のみでは対応不可能な病態の増加、症状の多様化がみられる。西洋医学に対し、東洋医学は別の観点から疾患及び患者に対応する学問として発展してきている。東洋医学は患者の症状を常に多角的に捉え、総合的な所見を重要視し、個々の対応を行い治療に貢献してきた。現代の医薬は、単一の症状に効果が出るように開発されてきたのに対し、漢方薬は多様な症状に効果を与えることを想定して開発されている。近年、遺伝子医学の分野で言われている「個の医学」や生活習慣病の分野で注目されている「予防医学」の概念などは、最先端の西洋医学の立場から、あらためて東洋医学にその考え方を学ぼうとする動きが広がりつつある。東洋医学は中国や東南アジア特有の学問であり、「漢方医学」は我が国が独自に発展させてきたものである。

本講座を開設することにより、これらの歴史的に継承されてきた医学を新たに最先端の解析技術を駆使して有効性を検証し、さらに発展させ、新しい「統合医療」を目指すことが可能になると考えられる。このような背景から、平成17年10月に漢方医学寄附講座が開設された。

◇診療活動

月曜・火曜は午後1診、水曜は午後2診、木曜・金曜は午前午後各1診の、合計8診体制で行って

いる。外来場所は総合診療部の午後診枠を使用、初診・再診ともに完全予約制である。院外処方であるが、日本で保険適応のあるほぼ全ての種類のエキス製剤と生薬製剤が処方可能である。外来部門のみであるが、他科入院中の患者に対する診察は可能である。なお、鍼灸治療は行っていない。

1コマの患者数は初診が1～2名、再診が10～20名程度である。大学病院の予約制外来という特殊事情もあり、慢性疾患で病歴・愁訴の複雑な患者が多い。疾患群としては多い順に慢性の疼痛、身体表現性障害、悪性腫瘍治療後の後遺症や補助療法、気分障害・不安障害などの精神科疾患、自己免疫疾患、産婦人科疾患、皮膚科疾患、疲労を主訴とする者、消化器疾患などである。

◇教育活動

1) 学部学生に対して

3回生対象：薬理学の中で2コマの講義を行っている。主に生薬薬理学として解説し、漢方医学の理論的背景はあまり触れない。

4回生対象：臨床医学特論の中で7コマの講義を行う。教室員全員による講義を行っている。進級のために必要な授業の1つであり、評価は出席とレポートによって行っている。出席率は非常に高い。

6回生対象：総合診療部の臨床実習中に、希望者に対して外来実習を行っている。

2) 大学院学生に対して

大学院医科学専攻修士課程に対して、漢方医学の授業を1コマ行っている。

3) 大学クラブ活動に対して

医学部和漢薬研究会の学生に対し、顧問として日常勉強会また学園祭での適宜指導を行っている。医学部のクラブではあるが、総合大学であることより薬学部や社会学系の学生も参加しており、アクティブに活動を行っている。

4) 研修医に対して

大阪大学にて初期研修医に対して、最低限知っておくべき漢方医学の基礎知識について解説をした。これは大阪大学卒業研修センターの主催として行なわれ、研修医の参加が義務付けられているものである。

5) 学内教育・啓蒙活動(faculty developmentの一環として)

大阪大学漢方研究会(クローズドメンバー)を月に2回開催している。この研究会は講座発足当

初より開始し、症例検討、研究報告、学会予行、ならびに輪読会などを行なっている。この研究会は当科医局員のみならず、内科、皮膚科、薬剤部、そして院外医師などから、幅広く参加がみられる。メンバーの中からは、東洋医学会総会および関西支部例会へ、また各自の専門の学会に漢方をテーマとした演題を積極的に発表し、東洋医学会専門医取得に向けて勉強している。

また、大阪大学基礎漢方研究会（オープンメンバー）を不定期で6回シリーズとして月に1回開催した。これはより基礎的な内容を開設し、大阪大学学内での漢方の基礎的な普及をはかることを目的とし、臨床の各科医師、ならびに歯科医師、看護師などの参加もみられた。

さらに、大阪大学臨床漢方研究会を立ち上げた。これは、阪大臨床各科より1名の委員を選出し、定期的な研究会を行うとともに、各科で1名の「漢方に詳しい医師」を養成することによって、学内での漢方のさらなる普及や研究の連携を進めることが目的である。第1回研究会は12月に行われ、日本大学の木下優子先生をお招きして講演をいただいた。

6) 他学に対して

西田は関西医科大学非常勤講師として、「全人的医療学」の授業(4回生)を1コマ担当した。また、神戸大学についても非常勤講師として、「全人医学・心療内科領域の漢方治療について」の授業(6回生)を1コマ担当した。

◇研究活動

西田は心身症疾患についての臨床研究を行っている。また、本学公衆衛生学教室、ならびに大阪府立健康科学センターとの共同研究にて、平成22年度科学研究費補助金(基盤C)「冷え症と生活習慣・生活習慣病との関連、及びその介入方法に関する研究」が採択された。井上は疼痛疾患に対して基礎および臨床研究を行っている。岸田は運動器・整形外科領域についての基礎および臨床研究を行っている。有光は膠原病疾患についての基礎及び臨床研究、ならびに平成21年度科学研究費補助金(若手B)「NSAIDs起因性小腸潰瘍に対する大建中湯の予防効果の検討」を行っている。中西は岸田の指導にて疼痛疾患に対する基礎実験を行っている。大塚は内分泌代謝疾患の臨床研究を行っている。

◇学会活動

第27回和漢医薬学会学術大会が、京都薬科大学生薬学教室の吉川 雅之教授を会頭、西田を実行委員長として、同大学京都山科のキャンパスに

て、平成22年8月28日(土)・29日に開催された。特別講演3題、シンポジウム4題、ランチョンセミナーと一般講演(ポスター)の発表があり、参加者も約700名と盛況であった。

◇論文発表

英文

1. Hattori T, Fei W, Kizawa T, Nishida S, Yoshikawa H, Kishida Y.: The fixed herbal drug composition "Saikokaryukotsuboreito" prevents bone loss with an association of serum IL-6 reductions in ovariectomized mice model. *Phytomedicine*. 2010 Mar;17(3-4):170-7.
2. Toru Hiratsuka., Shinsuke Matsuzaki., Shingo Miyata, Mitsuhiro Kinoshita, Kazuaki Kakehi, Shinji Nishida, Taiichi Katayama, Masaya Tohyama: Yokukansan Inhibits Neuronal Death during ER Stress by Regulating the Unfolded Protein Response. *PLoS One* 2010 Oct;12(5) : 1-8

和文

1. 井上隆弥、岸田友紀、西田慎二：不眠と顔面外傷後疼痛に柴胡加竜骨牡蛎湯が著効した36歳男性、日本東洋心身研究、24(1-2)：52-56、2010
2. 井上隆弥、鈴木高広、川合祐介、岸田友紀、有光潤介、中西美保、大塚静英、加藤由紀子、西田慎二：八味地黄丸が有効であった肢端紅痛症の1症例、ペインクリニック31(10)、1357-1361
3. 岸田友紀：ツムラ漢方スクエア メールマガジン「私の漢方診療日誌」126号-135号
4. 有光潤介、萩原圭祐、大谷安司、大塚静英、中西美保、井上隆弥、岸田友紀、蔭山充、西田慎二：化学物質過敏症の多彩な訴えに茯苓四逆湯方意と工夫して附子末を組み合わせて著効した53歳女性の一例、漢方研究458：2-3
5. 有光潤介、萩原圭祐、大谷安司、中西美保、大塚静英、河合麻理、井上隆弥、岸田友紀、田中敏郎、蔭山充、西田慎二：全身性エリテマトーデスに対して人參湯が有効であった2症例、漢方と診療1(2) 124-127
6. 有光潤介、萩原圭祐、大塚静英、中西美保、井上隆弥、岸田友紀、蔭山充、西田慎二：九味檳榔湯が有効な滑脈を呈する下腿浮腫の2女性、漢方研究461：2-4
7. 有光潤介、中西美保、大塚静英、井上隆弥、岸田友紀、蔭山充、西田慎二：脈診(経方)が処方

薬の決め手になった再発性帯状疱疹の58歳女性、漢方研究462：8-10

8. 有光潤介, 萩原圭祐, 大谷安司, 中西美保, 大塚静英, 加藤由紀子, 井上隆弥, 岸田友紀, 尾崎和成, 清水健太郎, 蔭山充, 西田慎二：原発性胆汁性肝硬変、シェーグレン症候群、レイノー症候群を合併する病態に対して漢方薬が著効した61歳の女性、漢方研究465：8-10
9. 中西美保, 蔭山充, 中井恭子, 福井弥己郎, 野坂修一, 古瀬洋一, 有光潤介, 大塚静英, 井上隆弥, 岸田友紀, 西田慎二：不眠と顔面外傷後疼痛に柴胡加竜骨牡蛎湯が著効した36歳男性、日本東洋心身研究, 24(1-2)：52-56, 2010
10. 蔭山充, 志馬千佳, 中井恭子, 山分翔興, 西田慎二, 有光潤介：【女性にやさしい漢方療法】よく用いる女性のための漢方薬 効かせる漢方、婦人科治療100(6)：1005-1012
11. 西田慎二、加島雅之、菅沼栄ほか：「医学生のための漢方医学」「臨床篇」心身症 消化管機能異常. 中医臨床 31(2)：158-165, 2010

翻訳

1. 西田慎二、辻本貴江、(監訳 伊藤壽記、上島悦子)：13. 中国伝統医学と中国現代医学. がんの統合医療、262-292、メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、2010

◇学外講演、学会発表

1. 西田慎二：プライマリケアと漢方薬、堺市医師会内科医会学術講演会. 2010. 1
2. Inoue T, Arimitsu J, Hagihara K, Otani Y, Nakanishi M, Otsuka S, Shimizu K, Ozaki K, Kishida Y, Nishida S
A clinical assessment of Shigyaku-san (Sini san, TJ-35.) in the treatment of chronic thoracic back pain: The 15 International congress of oriental medicine, 2010, 2
3. Arimitsu J, Hagihara K, Otsuka S, Nakanishi M, Inoue T, Kishida Y, Ozaki K, Kageyama M, Toshio T, Nishida S:
Successful treatment for a patient with steroid refractory active systemic lupus erythematoses by Ninjinto - a case report: The 15 International congress of oriental medicine, 2010, 2
4. Otsuka S, Arimitsu J, Hagihara K, Nakanishi M, Inoue T, Kishida Y, Ozaki K, Nishida S, Combination therapy with

Ren-Shen-Tang (Japanese name: Ninjinto) and methotrexate in Two Patients with rheumatoid arthritis : a case report, 15thICOM, Tiba, 2010. 2

5. 西田慎二：妊娠に伴う唾液分泌過剰に、漢方薬が著効した一例. 第49回日本心身医学会近畿地方会、京都、2010. 2
6. 井上隆弥, 岸田友紀, 有光潤介, 大塚静英, 中西美保, 西田慎二：慢性会陰部痛に対し滋陰降火湯と六味丸の併用が有効であった1症例の経験、東洋心身医学研究会、名古屋、2010. 3
7. 中西美保, 蔭山充, 中井恭子, 志馬千佳, 有光潤介, 大塚静英, 井上隆弥, 岸田友紀, 西田慎二：「原因不明の頭痛に加味逍遙散が有効であった1例」、第46回日本東洋心身医学研究会、名古屋、2010. 3
8. 岸田友紀：「漢方薬の最新研究」, 大阪大学漢方医学寄附講座 第1回研修医のための漢方セミナー, 講演, 2010. 3
9. 西田慎二：心療内科領域における漢方治療～心身症とうつ症状を中心に～、第16回東播磨臨床漢方研究会、2010. 3
10. 西田慎二：心身症に対する漢方治療、第1回ミニバラの会. 2010. 3.
11. 西田慎二：消化管不定愁訴の漢方治療、南大阪漢方研究会. 2010. 4.
12. 西田慎二：鳥取県中部地区学術講演会. 心療内科領域における漢方治療～心身症とうつ症状などを中心に～、2010. 5.
13. 西田慎二：心身症に対する漢方治療、京都臨床漢方医学講座. 2010. 6
14. 井上隆弥, 有光潤介, 大塚静英, 中西美保, 岸田友紀, 萩原圭祐, 大谷安司, 尾崎和成, 清水健太郎, 西田慎二：薬剤性パーキンソン病に伴う不随意運動に対し抑肝散が有効であった一症例の経験、日本東洋医学会総会、名古屋、2010. 6
15. 岸田友紀, 有光潤介, 井上隆弥, 中西美保, 大塚静英, 西田慎二, 萩原圭祐, 大谷安司, 尾崎和成, 清水健太郎：整形外科手術前の自己血貯血時における十全大補湯の造血効果、日本東洋医学会総会、名古屋、2010. 6
16. 有光潤介, 萩原圭祐, 大塚静英, 中西美保, 井上隆弥, 岸田友紀, 大谷安司, 尾崎和成, 清水健太郎, 蔭山充, 西田慎二：全身性エリテマトーデスに対して人参湯が有効であった三例、日本東洋医学会総会、名古屋、2010. 6
17. 中西美保, 蔭山充, 有光潤介, 大塚静英, 岸田友紀, 井上隆弥, 西田慎二：「明らかな精

- 神的要因を認めなかった難治性の頭痛と動悸に柴胡加竜骨牡蛎湯が著効した1例」、第61回日本東洋医学会学術総会、名古屋、2010. 6
18. 大塚静英、有光潤介、伊添千寿、萩原圭祐、大谷安司、尾崎和成、清水健太郎、中西美保、岸田友紀、井上隆弥、西田慎二、蔭山充：「枸杞子を含む漢方が月経に影響を与えた4症例」日本東洋医学会総会、名古屋、2010. 6
 19. 西田慎二：「シンポジウム7補剤の臨床—ストレス社会と虚証化する日本人への処方箋」心身症における補剤の役割. 第61回日本東洋医学会総会、名古屋、2010. 6.
 20. 西田慎二：「シンポジウム6東洋医学によるアプローチ」男性更年期外来患者の漢方治療. 第10回日本抗加齢医学会総会、京都、2010. 6
 21. 西田慎二：日本東洋医学会熊本県部会. 鬱病・心身症の漢方治療、2010. 7
 22. 井上隆弥、安部剛志、古瀬洋一、阪上 学、花田留美、松田陽一、柴田政彦、真下 節：痛みと漢方、シンポジウム、日本ペインクリニック学会総会、京都、2010. 7
 23. 花田 留美、井上 隆弥：食道癌術後(内視鏡的)の腹壁痛に対して漢方薬が著効した1例、日本疼痛漢方研究会学術集会、東京、2010. 7
 24. 中西美保、蔭山充、中井恭子、志馬千佳、有光潤介、大塚静英、井上隆弥、岸田友紀、野坂修一、西田慎二：「アレキシサイミア(失感情症)傾向を認める慢性疼痛に対する柴胡剤の治療経験」、第23回日本疼痛漢方研究会学術集会、東京、2010. 7
 25. 井上隆弥：緩和ケアと漢方、大阪府看護協会、2010. 8
 26. 西田慎二：「シンポジウム4漢方の卒後教育」大阪大学における卒後教育. 第27回和漢薬学会学術大会、京都、2010. 8.
 27. 有光潤介：膠原病患者に対するサフランの効果 血小板活性化マーカー PF-4とb-TGを用いたお血病態の評価、第25回高雄シンポジウム 京都 2010. 9
 28. 有光潤介：冷えによる疾患の漢方治療 大阪医師会 2010. 9
 29. 西田慎二：女性疾患の漢方治療、京都臨床漢方医学講座. 2010. 9
 30. Nishida S., Eguchi E., Ohira T. et al: Therapeutic effects of Tokisigyakukagoshuyushokyoto(TJ-38) on peripheral blood flow in persons with feeling chillness, Hie-sho. The 14th congress of the Asian college of psychosomatic medicine. Beijing, China 2010. 9
 31. Arimitsu J, Hagihara K, Otsuka S, Nakanishi M, Inoue T, Kishida Y, Ozaki K, Kageyama M, Nishida S, Tanaka T: Successful treatment for three patients with steroid refractory systemic lupus erythematoses by Ren-Shen-Tang, The 7th World Congress Chinese Medicine Den Haag, 2010. 10 Netherlands
 32. Nakanishi M, Arimitsu J, Hagihara K, Otsuka S, Ozaki K, Inoue T, Kishida Y, Kageyama M, Nishida S: Usefulness of Aconite root powder (TJ-3022) for postherpetic neuralgia, 7th World Congress of Chinese medicine, The Hague (The Netherlands), 2010. 10
 33. Otsuka S, Arimitsu J, Hagihara K, Otsuka S, Nakanishi M, Inoue T, Kishida Y, Ozaki K, Kageyama M, Nishida S, Tanaka T: Traditional herbal medicine including Gouqizi Fructus Lycii may affect menstrual cycle and genital bleeding quantity—a case report, The 7th World Congress of Chinese Medicine, Hague, 2010. 10
 34. 井上隆弥、安部剛史：三叉神経痛に対する漢方薬の治療効果について、脳神経外科漢方研究会学術集会、東京、2010. 10
 35. 井上隆弥、有光潤介、大塚静英、中西美保、岸田友紀、加藤由紀子、萩原圭祐、大谷安司、尾崎和成、清水健太郎、蔭山充、首藤達哉、西田慎二：三叉神経痛に対する漢方薬の治療効果について、日本東洋医学会関西支部例会、神戸、2010. 10
 36. 有光潤介、萩原圭祐、中西美保、大塚静英、井上隆弥、岸田友紀、加藤由紀子、大谷安司、尾崎和成、清水健太郎、蔭山充、西田慎二:人参湯が著効した味覚異常の一例、東洋医学会関西支部例会 2010. 10
 37. 中西美保、蔭山充、中井恭子、有光潤介、大塚静英、岸田友紀、井上隆弥、加藤由紀子、萩原圭祐、大谷安司、尾崎和成、西田慎二：「四逆散と桂枝茯苓丸加薏苡仁の併用が著効した男性更年期障害の1例」、平成22年度日本東洋医学会関西支部例会、神戸、2010. 10
 38. 大塚静英、有光潤介、伊添千寿、萩原圭祐、大谷安司、尾崎和成、加藤由紀子、中西美保、井上隆弥、岸田友紀、清水健太郎、山分ネルソン祥興、蔭山充、西田慎二：「Henoch-Schönlein紫斑(Henoch-Schönlein Purpura; HSP)

- に漢方治療が奏功した一症例」、平成22年度日本東洋医学会関西支部例会、兵庫、2010. 10
39. 大塚静英：「女性と漢方」, 大阪大学漢方医学寄附講座 第2回研修医のための漢方セミナー, 講演, 2010. 10
 40. 西田愼二：私の好きな処方、その応用と実際加味逍遥散について、京都漢方研究会. 2010. 10.
 41. 有光潤介:経方医学によるエキス剤への応用 第47回神戸和漢薬症例検討会 神戸 2010. 11.
 42. 西田愼二：漢方調剤フォーラム. わかりやすい薬剤師のための漢方医学入門、2010. 11.
 43. 岸田友紀：臨床漢方研究会. 漢方を科学する～集まり始めた漢方薬の科学的根拠～ 2010. 12.
 44. 井上隆弥、鈴木高広、川合祐介、有光潤介、大塚静英、中西美保、岸田友紀、加藤由希子、西田愼二：慢性会陰部痛に漢方薬が奏効した1症例、ペインクリニック32：(1), 137-139, 2011. 1
 45. 井上隆弥、岸田友紀、有光潤介、中西美保、大塚静英、西田愼二：アレルギー性結膜炎に伴った眼脂に著効を示した梔子柏皮湯の2症例、漢方研究 5：200
 46. 井上隆弥CRPSと漢方、CRPS複合性疼痛症候群：9：213-216, 2009